

さくら

題字 足立区長

足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
連合会長 中田 貢弘
編集 広報部会
発行日 2006年3月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1



東洲江小5年 坂本朝香 作

目次

天皇・皇后両陛下ご行幸	2
祝 褒 章	3
高校の取り組み	4
教育委員と民生委員の意見交換会	5
子育て応援団	6
介護ってなあに	7
民児協便り	8
編集後記	

「さくら」第10号発刊のお礼

民生・児童委員の広報紙「さくら」をご愛読いただき厚く御礼申し上げます。都民連の中でも広報紙がないのは数区だけとのことで、中田連合会長、鈴木区長をはじめ関係各位の方がたのご尽力を賜わり2003年3月1日に発刊の運びとなりました。

景気回復の兆しが見られる昨今ですが、身近な状況としては、児童虐待、幼児への殺傷、高齢者の介護や一人暮らし、リフォーム詐欺、振り込め詐欺等があり、弱者への犯罪の顕著さが日々紙面を賑わせております。人権擁護、個人情報保護等我々の生活が孤立化し、世間との繋がりが薄れて行く風潮の中

足立区民生・児童委員協議会

広報部会長 平田 幹明



で、ますます民生・児童委員の役割が重要性を増し、活動の有用性が求められてまいりました。子どもだけでなく、飽食の時代を経て来た20代～40代世代をも含め、教育と福祉の協働が益々重要となってまいりました。「さくら」が民生・児童委員の活動の一翼を担え、さらに情報交換の場となるべく今後ともご指導、ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

天皇・皇后両陛下「足立あかしあ園」にご行幸



平成17年12月9日午後2時20分に天皇・皇后両陛下がご行幸されました。沿道の1,000名を超える地域の皆様のお出迎えに、お車の中よりこやかに

お手を振られ、お車をお降りになられてからも振り向かれて住民の方がたに笑顔でお答えされておりました。

岸本理事長を先頭に園長、区長、区議会議員、厚生労働省、東京都福祉保健局の順にお迎えとご挨拶をさせていただき、園内をご先導させていただきました。法人の歩みや施設の概要、事業内容について両陛下は大変興味深くお聞きになられ、「区全域からの53名の方は毎日通ってこられるのですか」とのご質問がございました。園内を70分間に亘り、利用者・職員の全員に丁寧なお声がけをくださり、改めてお二人の優しさを身近で感じさせていただきました。大変光栄な記念日となりました。

(園長 横内康行 記)

足立区社会福祉協議会 50 周年記念式典に参加して



松本敏郎会長



鈴木恒年区長



三宅亨東社協副会長



浜畑賢吉氏

10月29日、庁舎ホールにて式典が行われました。中村副会長の開会の辞のあと、松本会長より「盛んに50周年のお祝いができることに感謝いたします。あったかサービスや基幹センターの充実など、皆様にはこれからもご支援を宜しくお願いいたします」と、挨拶がありました。次に鈴木区長より「50周年を迎えて心より感謝いたします。高齢社会になり介護保険の整備などますます重要な課題が山積しております」と挨拶されました。続いてご招待の方がたからの祝辞があり、第1部が終了しました。

第2部は、俳優の浜畑賢吉氏による「俳優からのぞいた世界」という演題で記念講演がありました。

浜畑氏は現在大阪芸術大学の教授として若い人の中でも活躍中。「60歳になったら自分の好きなことだけすると宣言したら逆に多忙となり大変になってしまった。いくつになっても、うきうきキラキラしている人に運が来ると思う。頭をやわらかくして子どもの時の気持ちをずっと持ち、心の元気を一番にしてほしい」と述べられておりました。

私達の心に響くすばらしい講演でした。

(11地区 須田陽子 記)

第10回 心の健康フェスティバル

Heat to heat 伝えよう 広げよう 心の声を!

日時= 3月4日(土) 11:00~16:00

場所= 足立区役所(庁舎ホール・アトリウム・正面広場)

プログラム

模擬店・バザー品販売(12:00~)
自主製品販売 座談会 音楽療法
演奏 演劇展示 家族相談会
就労相談など

中学校演奏

第十一中学校 11:00~
(2階庁舎ホールにて)
第七中学校 12:50~
(1階アトリウムにて)

特別講演 2階庁舎ホール

13:40~14:50
講師 Watari
「Shall we ダンス」芸術監督
現在は心理カウンセラーなどで活動

主催: 足立区 後援: 足立区社会福祉協議会
足立区立小学校PTA連合会

足立区民生・児童委員協議会 NPO 足立フォーラム21
協賛: 足立区地域精神保健福祉連絡協議会

運営: 心の健康フェスティバル実行委員会

足立区は活動記録提出100%継続を目指します

叙勲 瑞宝単光章受賞 祝 厚生労働大臣賞受賞



このたび不肖私、秋の叙勲におきまして、瑞宝単光章を受賞いたしました。身に余る光栄と感激しております。これも偏に関係皆様方のご指導・ご支援の賜と感謝申し上げます。11月4日東京都庁にて勲章の伝達を受け、11月9日皇居豊明殿において天皇陛下に拝謁の栄を賜りました。

昭和43年民生・児童委員を拝命いたしましてから30数年、お陰様で健康にも恵まれ、地域の皆様方と共に活動してきましたこと、本当に幸いに思います。ただこの間、どれほど福祉への貢献ができたかを思うと忸怩たる思いでいっぱいです。これからは残された任期を皆様と共に微力ながら地域の福祉増進のために全力を尽くす覚悟です。

第二合同佐野地区（第二合同会長）関根眞教 会長



このたび厚生労働大臣賞を受賞できたのは、7地区の民生・児童委員の方、第四合同の委員の方がたの温かいご厚情とご協力と励ましのおかげです。また、関係諸機関のご指導をいただき、本日まで無事に務めることができ、心から感謝いたしております。これから地域の皆様から期待され信頼される民生・児童委員として、微力ではございますが日々努力を重ね明るく楽しい社会生活が営まれますよう、お役に立てればと頑張っていきたいと思います。どうぞ今後とも皆様よりご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

第四合同7地区 瀬田敬一郎 会長

母と私

私は、昭和16年11月第2次世界大戦が勃発する数日前に、渋谷区広尾で誕生しました。姉と私は、8歳の年の差があり、8年目にできた男子です。父は私を溺愛し、買物や散歩、仕事場にも連れて行ったそうです。そして父は、私が物心ついた3歳の冬に病死。それから母の苦勞が始まったのです。

住まいは狭い路地の隅、2戸建て長屋で母と姉の3人暮らしの生活が始まりました。戦争中であり食物はなく、配給米が底をつく毎日が「スイトン」。うどん粉を水で混ぜ固く練り醤油で味付けし、具は大根やサツマイモ類を鍋で煮込み、それが主食でした。気丈な母は近所の実兄や叔父に頼み、毎日の生活費を工面して貰うために、イカケ、コウモリ直しの仕事を手伝うようになりました。イカケとは、鍋、釜、薬罐（その当時は生活用品の中での貴重品）など、穴があいた部分を修理することです。コウモリ直しとは、傘の骨が折れたり生地が破れてしまった物を修理することです。そうして代金をいただき私達の生活の支えとしておりました。



千寿第八小 1年 岸本奈歩 作

小柄な母は、雨の日も風の日も私を背負い、休みなく恵比寿、渋谷方面へ。また、ある日は、麻布、青山方面へ。

「イカケ、コウモリ直し」と叫びながら各家庭

を訪問。品物を預かり叔父に修理して貰い、お客様の所へ届け集金。私は母の背でそのぬくもりを感じ、その姿を見ておりました。日によっては1件も仕事がない時があり食事でもできず、また炭を買うお金もなく、センベ

イ布団で親子3人寒さに震え抱き合って寝る生活が続きました。母は生活の苦しみ、寂しさのあまり、夜涙を流したことも私は覚えております。そして昭和20年3月東京大空襲、母は私と姉に防空頭巾をかぶせ、近くの有栖川宮公園の防空壕に避難、そして終戦。

町は落ち着きを取り戻しましたが、私達親子の貧乏生活は続き、近所の親切な人が、その生活を見るに見かねて生活保護の手続きをしてくれたそうです。

今も思う60年前の母と私の生活でした。私は、丈夫な身体と、苦しみを笑って隠せる精神力を与えてくれた母に感謝し、その当時私達親子に対し生活保護で助けてくれた社会に対し感謝しながら、その恩を返すためにも私は、民生委員活動を今なお続けております。

（第7合同会長 宮崎十三 記）



東洲江小 6年 谷森あゆむ 作

都立 足立新田高校 の取り組み

子どもたちの健全育成は今や大きな社会問題である。かつては地域社会が子どもの育成に大きな力を発揮した。地域を舞台に、学校と家庭と地域が手を取りあって、子どもたちを育てていかなければ、“生きる”ことに希望のもてない高齢化社会を迎えることになる。

本校では平成14年度から訪問介護員2級の資格を取得するための講座を開いている。土曜・日曜を

利用して生徒と保護者、そして一部地域の方がたにも対象を広げている。子ども、親、お年寄りの三世代が一緒になって介護の勉強をする光景からは和やかだけでなく、核家族化が進む中、世代を超えた人間社会のよりよき関係を育む貴重な学習体験の場でもあることが伝わってくる。

(都立足立新田高等学校長 荒川兼一 記)

都立足立新田高校独自の学習カリキュラムのひとつに、福祉教養系があります。学校施設が充実しており車椅子体験、擬似老人体験、介護体験、保育実践など福祉に係わる貴重な体験学習が行われています。訪問介護員2級資格取得講座も開講され、生徒の皆さんは希望にあふれ、和気あいあいと勉学に励んでいます。なかには、障害児への活動を自主的に実践している生徒さんもいます。将来は、福祉関係のスペシャリストとして活躍していくことでしょう。

素晴らしいと思うことは、地域全体での福祉活動への関心を高めているところです。というのは、地域の福祉施設、保育園、住区センターなどでの

インターンシップを頻繁に実施し、生徒の皆さんと地域の方と触れ合う機会を作っているのです。地域の小中学校とも連携し、車椅子を貸し出したり、ボランティアの募金活動で街頭に立ったり、地域クリーン作戦などの活動を地道に行っているからです。地域社会が明るく、少しでも過ごしやすくなるために、足立新田高校の活動が今後ますます盛んになるように願っています。

(江南・新田地区 茂出木幸子 記)



子どもが問題行動を起こす前に

地区対主催により、10月に小学校の体育館で行われた講演会「子どもが問題行動を起こす前に」に参加し、お話を聞きました。いま子どもの育つ社会環境が、いかに悪いかを再認識しました。子ども110番に「これから塾に行ってきます」と電話があるという話を聞き、子どもの寂しい思いが感じられました。子育てを子どもとともに考えて、個として認め、約束事を決め、役割を持

たせる親であってほしいと思いました。2時間という短時間でしたが、子育てをしている親、学校長、町会自治会役員の多くの参加をいただき有意義な講演会でした。子どもの育つ環境を参加者一人ひとりが、子どもをコントロールするのではなく、子ども自身で行動を決めるのを助ける大人であってほしいと願っています。

(6地区 板垣壽春 記)

(注) 地区対＝青少年対策地区委員会



千寿本町小 3年 吉田彩香 作

とびっくす

12年に一度の式年例大祭に参加して

日本武尊ゆかりの神社であり最古の御西様である花畑大鷲神社の式年例大祭が、平成17年10月19日行われました。小雨のけふる境内、蒼然とした木立の中での古式豊かに神事が執り行われ宮出しとなりました。神官が乗る白馬を先頭に30名程の袴姿の神守と大神

輿、山車等多くの参加者による大祭神行列が花畑全域を練り歩きました。そして多くの沿道の人々に雅の雰囲気を与え、各町会内への引継ぎをし、12年に一度の大祭が荘厳の中にも多くの歓声が響き渡り、無事幕となりました。

(花畑地区 細井力造 記)



教育委員と民生・児童委員との意見交換会

11月8日、区役所特別応接室にて、民生係長の司会で会が進行しました。出席された方がたは教育委員長を始め6名、民生・児童委員からは連合会長、合同会長を始め7名でした。最初に油井教育委員長から「教育と福祉は連携なくしては成り立たない、民生・児童委員として家庭にもう少し強く入ってもいいのでは



はないか」と、発言がありました。次に内藤教育長からは「子ども

の実態が届いてこない。福祉と教育がうまく連携していかなければいけない。もっと危機感を持っていただきたい。どれだけ大人が本気になれるかだ」と発言がありました。他の教育委員の皆様、連合会長、合同会長からも、貴重なご意見がありました。学校、行政、地域がしっかりとかがわって、教育者が全力でやっていけるような環境をつくらなければいけないのではないかと思います。



(11地区 須田陽子 記)

第59回東京都民生委員・児童委員大会開催

11月22日、文京シビックホールに於いて東京都民生委員・児童委員大会が開催されました。東京都副知事、東京都民生児童委員連合会会長を始めとして、来賓、被表彰者、関係者など多数出席のもとに開会されました。



主催者、来賓の皆様の挨拶の後、表彰式に移り、足立区では9名の方が受賞

されました。その後、第59回東京都民生委員・児童委員大会宣言案が全会一致で採択されました。続いて詩人の谷川俊太郎氏の記念講演「どうせなら陽気に老いたい」のタイトルで対談が行われました。谷川氏は現在74歳、創作活動46年の歴史があります。以前に「老いによって日常生活の上での経験が否応なしに私を変えていき、詩もそれと無縁ではありえないことをあらためて感じる」と述べられています。ユーモラスな内容の対談を傾聴し、有意義な大会の1日でありました。

(花畑地区 細井力造 記)

人間の宝には子に過ぎたる物こそなかりけれ

保元物語（作者不詳）

民生委員が直面した生活保護世帯の実態（事例）

ケースワーカーとの懇談会において、保護世帯の生活実態を把握するための個別訪問の依頼がありました。その中の一件で、呉服店に勤務する78歳の独居女性のことです。いつもお元気で、明るく話好き、「収入があると保護費が差し引かれてしまうけれど、働いていたほうが楽しい」と前向き。訪問したときも「今は元気。仕事も楽しい。心配事も特にない。景気が良くなって欲しいくらいかしら」と笑って話していましたので、安心していました。それから1カ月後、「相談したい」とやってきました。仕事の話、友人の話、若いときのことなど1時間以上もお話していただいでしょうか。持っている紙切れに「消費者金融」の文字が見えました。「それは何？」と聞くと「ここに電話すると

すぐに6万円貸してくれる」とのこと。びっくりしてよく聞いてみると「100万円くらい借金があり、今月中に5万円返済するお金もない。保護費として入金した分も返済に当てている」とのこと。困りました。そして、とても私の手に負えないことを話し、「明日、必ず、担当のケースワーカーさんのところに行くように。私からも電話でよく頼んでおくから」と約束して帰っていただきました。

後日聞いたところによると、借金は500万円あったそうです。呉服店で自分の成績を上げるために、掛売りをして借金を増やしていたそうです。普通の生活に戻るためにも、退社を勧め、債務整理し自己破産の方向に進めているとのことでした。

(A地区B民生・児童委員 記)



昨年11月、子育てフォーラムinあだちが開催されました。このフォーラムは区で初めて、子育て中の親と支援者が一緒に企画運営したものです。フォーラムに先立って実施した「子育てママ362人の本音アンケート」や当日会場からの発言の中で、育児を自分なりに工夫しながら、それでもなお「子ども



を預けてまでストレス解消するのは、いけない気がして周りの目が気になる」「本当に大変な時はSOSを発信するゆとりさえない」

「最後の最後までがんばらなくとも助けを求めているんだ」など孤軍奮闘する母親たちの声が寄せられました。一方、実行委員会の中では、支援者とは子育てが終わった方ばかりではなく、子育て中の親どうしもお互いが支援者」という意見が出されました。

実際、子育てサロンや地域の母親サークルの現役ママたちの中から「私も早く応援する側になりたい」という声が聞かれます。「やってもらったことは、他の人にもやってあげられる」地域でさまざまな世代の素敵な支援者に会うこと。若い親たちの力の発揮の場を作ること。こうしたことが、足立区の子育て支援の環境を支えています。

(足立区子ども家庭支援センター 金内京子 記)

主催 子育てフォーラムin足立実行委員会・共催 足立区 足立区社会福祉協議会・後援 足立区教育委員会

子どもを地域の力で守ろう

区立中島根小学校の「子どもを地域の力で守ろう」「どうしたら子どもを悲惨な事件から守れるか」「できることから始めよう」の合言葉で、まず目立った色の登り旗を作成し、街の重要な所、危険な所に、地域の皆様の協力を得て立てることができました。各家庭には町会の回覧板ルートに乗せていただき、注意とご協力を要請する文

面を配布しました。近日中に町の掲示板にも同様のものを貼って注意をうながしていこうと思います。他に犬の散歩やジョキングをしている方がたが結成した、ワンワン散歩パトロール隊を組織し、地域の方がたからも目を光らせていただき、子ども達が安心安全に登下校できるよう、一層のご協力をお願いしております。

(区立中島根小 開かれた学校づくり協議会会長 桜井忠義 記)



舎人地域学習講座「地域で子育て・ひとりじゃないんだ」第2弾

本年度の舎人地域学習講座は、舎人小学校開かれた学校づくり協議会と舎人地域学習センターの共催です。地域の方がたと協力し、問題解決を目指して開催する講座です。

一昨年度は子育てがテーマで「子どもを犯罪から守るには」昨年度は「地域で子育て、ひとりじゃないんだ第1弾」として「地域で担う子育て」本年度



大谷田小 4年 大庭愛美 作

も「地域で子育て、ひとりじゃないんだ第2弾」として「子どもをやる気にさせるほめ方、叱り方」を学びました。昨

年度と本年度は武蔵大学教授武田信子先生を講師にお招きしました。

7月30日、舎人小学校において舎人小PTA、OB、地少協、民生・児童委員、一般の合計71名の参加があり、子どもをやる気にさせるほめ方、叱り方の講義の他、世代の異なる3人で叱る役、叱られる役、観察役を交代でロールプレーイングして共に考えました。子育ての土台は乳児、幼児期にあり、子どもは日々学習し成長しています。自分の存在が家族、地域で意識されていると感じられるよう、常に子どもと向き合って、共に喜び、ほめたり叱ったりと声をかけたいと思います。この講座の呼びかけには公社「ときめき」、舎人地域学習センターミニコミ誌「つくし」、ちらし等で行いましたが猛暑の中、自転車で本木方面から幼児のお母さんの参加があり、とても心強いものを感じました。

(14地区 森脇久仁子 記)

注) 地少協=地区少年団体連絡協議会



介護ってなかに・・・お茶べりサロン

「高齢者・障害者サロン（愛称：お茶べりサロン）」をご存知ですか？

「お茶べりサロン」とは、地域の方がたが主体となって行う「仲間づくり・居場所づくり」の活動です。社会福祉協議会では、高齢者をはじめ地域で暮らすさまざまな方が気軽に集まり、お茶を飲んだり、おしゃべりをしながら楽しいひと時を過ごす交流の場（サロン）づくりを応援しています。

高齢者や障害者にとって、「外出する場所があること」「話す機会があること」「楽しみに思える場所があること」は、精神的にも重要なことであると言われています。実際にサロンへ参加されている方からは、「今の一番の楽しみ」「情報交換ができるのが良い」「外出する機会ができた」「あいさつの輪が広がった」などの声が聞かれます。

民生委員の方や民生委員のOBの方にもご協力いただいております。現在では、区内に21カ所のお茶べりサロンが活動中です。活動内容もさまざまで、参加者で話し合いながら、おしゃべりや会食、体操、手芸、朗読、ゲームなどを楽しんでいます。

（足立区社会福祉協議会 福祉事業課 塚原純代 記）



6 地区の活動

サロン月曜会は毎月第4月曜日、会場には足立三丁目山川様宅をお借りして支援センターあだち、民生委員さんなどのご協力を得て実施する高齢者のお茶べりサロンです。発足より早や1年5カ月が経ちました。当日は、まず介護センターの健康チェックから始まり、講習会などの連絡があります。その日によって違いますが、折紙を折ったり、童謡を歌ったり、手足を動かして軽い体操をしたり、針と糸での作品作りをしたり等です。皆さん方もすっかり慣れて、毎月のサロンを楽しみにしていただいています。つい先日、新聞紙の伸びるマジックの披露で

は、ヒラヒラに伸ばしたときの歓声、笑顔が最高でした。サロンの平均年齢は83歳です。これからも元気でお茶べりサロンに行きたいと思っています。



長門小 1年 相楽花奈 作

（元第三合同会長 新井紀子 記）

ショウユウエン 足立翔裕園訪問とその後の課題

あんしんネットワーク連絡会で認知症等の勉強をする中で、「実際の介護現場をもっと知りたい」という声があがり、介護センター関原の所長及び職員、民生委員とで足立翔裕園を訪問しました。瞬時に湯が入れられる特別浴槽や大量処理能力のある洗濯室など行き届いた設備を見せていただき、「自分達もこのような施設で老後が送れたら」と考えまし

たが、現在550人の待機者がおり、年間30数名の新規入園しかないとのことでした。入園は申し込み順ではなく区の判定会議を経て、緊急性の度合いによって判断されるとのこと。待機者の多い現実を知り、施設入所と在宅介護の格差を無くすることが急務であると感じました。介護予防の必要性が社会的にも高まる中、10地区を管轄する介護支援センターにおいては、要介護者を含む65歳以上を対象に介護予防教室を開いています。会場では足腰の痛さも忘れ、いたわりのある会話と笑顔があふれていました。このような介護予防は、今後ますます民生委員との協力の元で、重要な柱になっていくと思います。介護予防など“まだまだ”は、もう“そろそろ”なのだと実感しました。

（10地区 川島恵美子 記）



千寿常東小 5年 成瀬勝巳 作



民生・児童委員協議会からのお知らせ

日程	会議名	場所
3月9日(木)	会長協議会	区役所13階会議室
3月13日(月)～17日(金)	合同地区協議会(16日除く)	区役所13階会議室
4月14日(金)	会長協議会	区役所13階会議室
4月21日(金)	都民生児童委員連絡会	文京シビックホール(予定)
4月～5月	自主研修	各地区の指定場所
6月～7月	ケースワーカー懇談会	各地区の指定場所

さくらにゅーす

地域文化祭あしの芽祭(第十三中学校)

第3回を迎えた「あしの芽祭」が、晴天の中で開催できましたことを嬉しく思います。来場者数は2千名を超えました。地域文化祭の目的は、地域一体型の教育環境の整備を行い、生徒と大人の共同作業の意味を追求し、子どもたちが自ら地域社会を大切に思い、ともに育むことの素晴らしさを知ってほしいとの願いからです。ステージ発表の恒例の太鼓では、迫力があり見る人をひきつけ、また、特別出演で歌手とJAZZオーケストラを迎え、とても華やかな催し物でした。模擬店は50店舗を数え、売れ行

きも好調で、生徒たちの顔には笑みがあふれ、学校を誇りに思っている姿を感じました。スポーツゲームでは、地域の子どもたちが集まり、大人もともに楽しみました。本校の後援団体の方がたも休憩が取れないほどの盛況でした。生徒たちの誇りを持った素顔は、素晴らしい学校へ変わりつつある本校の明るい象徴ではないでしょうか！



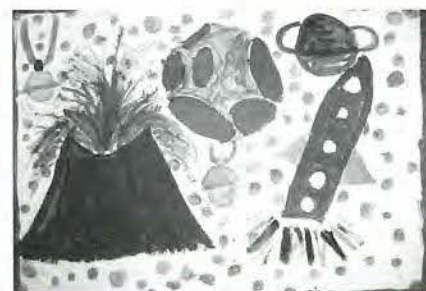
(区立第十三中学校あしの芽祭実行委員 菊池聡 記)

編集後記

「地域社会の実情を把握し、誠意をもって生活上の相談に応じ、自立の援助支援に努めます」との信条を胸に秘めて、足立区民生・児童委員553名が福祉事務所と連携し、役割を精一杯果たし活動し

ている姿をPRいたしました。今号は、うれしい原稿と写真を頂戴できました。お読みくださいました方がたに、限りない愛をこめて感謝いたします。

(渡辺正勝 記)



千寿常東小 5年 鈴木百恵 作

広報紙 掲載絵画の展示を行います

会場 区役所1階ロビー

3月9日から16日(予定)

■皆様の原稿を募集いたします。次号発行予定日 7月1日

原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。

広 報 部 会	部会長	平田 幹明	副部長	高野 季	宮本 勝男	会計	須田 陽子	飯泉 節子	書記	大沢 稔	編集	細井 力造	校正	田中 榮一	編集委員	渡邊 正勝	川島 恵美子	角田 千恵子	茂出 木幸子	森脇 久仁子	田中 千恵子	塩田 博子	北嶋 昭夫	校正委員	小菅 實	大久保 義子	松本 はな子	大城 忠男	山崎 勝	内藤 久子	加藤 喜代子	野辺 陽子	下田 尚保